

## ✿ 天平人の盤上遊戯「かりうち」 テストプレイを実施

奈文研では「平城宮跡の活用の実践的研究」として、奈文研の調査成果を活かし、平城宮跡来訪者に遺跡博物館ならではの体験を提供できるよう、企画検討を進めています。その企画の一つに、天平人の盤上遊戯「かりうち」体験があります。

「かりうち」とは、奈良時代に遊ばれていた双六に似たボードゲームで、平城宮・京跡のほか全国各地の遺跡から出土した土器に、その盤面となる記号が記されていることがわかり、古代日本で広く遊ばれていたと判明しました。「かりうち」に関する奈文研の研究成果は、奈文研リポジトリに資料が公開されていますので、ぜひご覧ください。

この「かりうち」という遊びを復元して、平城宮跡で大会を開催しよう！という野望を実現すべく、今年度より企画開発が始まりました。「かりうち」ではサイコロの代わりに、4本の棒(かり)を投げてその目の数だけコマを進めます。これらの道具が現代人にとって使いやすくなければ、ゲームは普及しません。また、ルールをわかりやすく伝えるためのルールブックの作成も大きな課題です。

そこでそれらの試作品を用意して、11月11日(棒が4本のかりうちの日)に、第1回テストプレイを実施しました。奈文研職員のほか、NPO平城宮跡サポートネットワークや平城宮跡管理センターの皆様もご参加くださいました。様々な試作品をテストし、その使用感等を評価してレポートに記載いただきました。忌憚のないご意見・応援の声を賜り、感謝申し上げます。平城宮跡にかりの音が響くその日まで、どうぞお付き合いください。

(文化遺産部 高橋 知奈津)



かりうちテストプレイの様子